

▲ 樹里安だより

ジュリアン

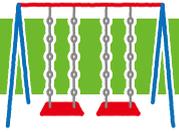
2019年
Vol.39



— 植木屋さんのおすすめ植物（その4） —

パキラ

スポンジ状の幹と手のひらに似た葉を持つ植物で、丈夫で育てやすく人気がある。元々原産地においては樹高が10～20mに達する常緑高木だが、日本では、1.5～2mほどの鉢物からミニサイズの hidroカルチャーまで多様な楽しみ方をされている観葉植物である。室内の日当たりのよい所を好むが、耐陰性もあり、様々な場所で育てることができる。樹勢が強いため、大きくなりすぎた場合も剪定によりコンパクトな樹形を維持することができる。水やりは土の表面が乾いたらたっぷりとあげるようにする。また、越冬の際は最低5℃以上の気温を保てる場所で管理すること。



緑に囲まれた快適な空間

潤いあふれる北原台公園

こじんまりと規模は小さいが、小高い丘の樹林に囲まれた潤いのある公園だ。平成8年4月、JR東川口駅から南西約1.5キロメートルの住宅街に建設されたセパレートタイプの施設で、広さは13,500平方メートル、工事費は9,223万円を投じた。

入口からゆるやかな坂の園路を上がると、遊戯・芝生広場がある。広さは2,160平方メートルで、広場の南側に子供たちが楽しむことのできるコアラ・ゾウ・パンダ・のスプリング遊具、すべり台、ブランコ、シーソーなどのアスレチック遊具が備えられている。また一郭には常緑樹の屋根付きの東屋とパーゴラ、広場の隅々にはベンチが置かれ、子供たちだけでなく大人も一緒に遊んだり、休んだり自由に振舞うことができる。

入口園路の右側には独立したスペースがある。広さは約100平方メートルで、真ん中にテーブル、いすを備えた東屋、周りにもベンチを設けている。全体が樹木ですっぽり覆われ周囲に気兼ねなく過ごせる場所となっている。

自由広場は公園の低地部分にある。面積は1,860平方メートル。水飲場とトイレが設けられており未舗装の広場となっている。

公園の外郭はインターロッキング舗装の園路で囲まれており、散策のほかジョギングやランニングも可能なコースとなる。

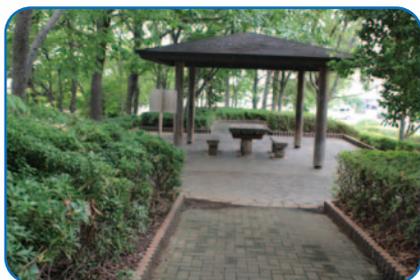
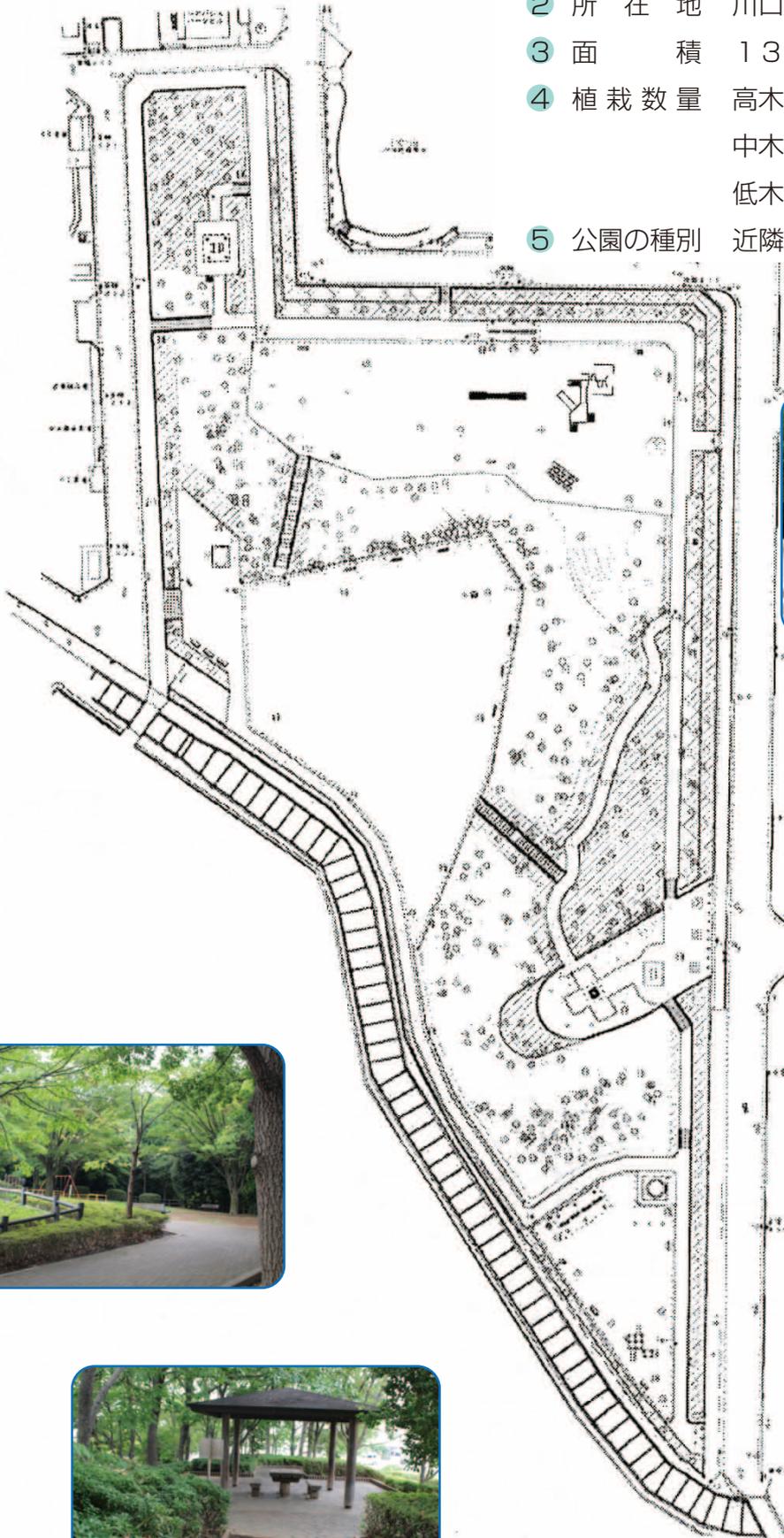
施設全体に樹木が繁茂しているため、“森の公園”という印象が強い。ケヤキ・シラカシ・ムクノキ・カエデ・サザンカ・ツツジ類など約620本が植栽され、緑と季節のそれぞれの花で飾っている。

夏は緑間から涼風が吹き抜け、冬は暖かい木漏れ日が差し込むという、快適で情緒ある公園だ。



公園情報

- ① 開園年月日 平成8年4月1日
- ② 所在地 川口市北原台3-23
- ③ 面積 13,444㎡
- ④ 植栽数量 高木23種 471本
中木 4種 124本
低木12種 24本
- ⑤ 公園の種別 近隣公園





栄養価高い秋の味覚

日常生活の風俗描く柿

「柿」といえば、「猿蟹合戦」の昔話や、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」（正岡子規）の俳句などが、すぐに頭に浮かぶ。果物として人間にとって貴重な存在だが、それだけでなく祭礼行事、迷信、風習などにも関連した多様な民俗性を持ち人間生活に深くかかわってきた。

カキノキ科の落葉中低木で、原産地は日本、韓国、中国。古い時代から人工栽培、品種改良が行われ、中国では530年～550年代に編集された農業書「齊民要術」に、ひこばえを利用した接木繁殖法が記されている。日本でも平安初期の「本草和名」（918）や諸制度を定めた「延喜式」（927）にも栽培方法や熟柿や干し柿の記載がある。

本格的に栽培されはじめたのは江戸時代から。今日までに甘柿では富有、次郎、御所、西村など、渋柿では市田、平核無^{ひらたねなし}、西条など多くの優良種が作出され、地方種を合わせると1,000品種を超えるほどとみられている。栽培地は沖縄を除く全国各地で、収穫量は和歌山、奈良、福岡がもっとも多い。19世紀に入るとヨーロッパやアメリカへ苗木が輸出され、世界各国でも栽培が進められている。

柿との長い付き合いから、柿を神聖視する民俗も生まれた。正月に神棚などに鏡餅にそえて干し柿を飾り、3日目に福茶とともに食べる地方が多くあり、供え物としてや、また目出たい食べ物と考えていたようである。



小正月に果物の豊作を願う呪術的行事「成木責め」にはこの木が使われた。このほか、「柿の木祭」、枝に団子をつけて飾る「柿ならし」、田植えあとの「田の神祭」、盆の「柿祇園」など、柿にまつわる行事は多い。

木の梢に実を数個とらずに残しておく「木守柿（きまもりがき・こもりがき）」という風習は今でも続いている。来年の豊作への祈願だというが、一方では野鳥のために残しておいてやるという人情味あふれる説もある。

神聖視されることによって迷信も付きまとう。柿の木から落ちるとバカになるとか死ぬといい、けがをすると一生なおらないという。木の下には妖怪や死んだ人の魂が出るとの話もある。木は屋敷内に植えない、いろりで焚かないなどの禁忌も各地に残されている。

木は古密で堅いので家具、茶道具、桶などの木工品や木材建築の材料として利用されている。渋柿からとる渋は、防腐防水作用があり、木工製品の下塗りや紙工芸や縄、網の補強素材に使われる。未熟の渋柿を発酵熟成させ、ろ過した液を柿酢といい食用にされた。

「柿が赤くなると医者は青くなる」との諺があった。豊富なビタミン類とミネラルは栄養価が高く、かぜや貧血の予防に役立つという。柿酢は火傷、しもやけ、血圧降下や解毒に効果があるとされ、柿葉茶は血管強化、止血作用を持っているということから、以前は医者いらずの民間薬として重宝がられてきた。近年になって抗がん作用のある成分が含まれていることが分かってきたので、柿の価値はますます高まっている。

柿食ふや命あまさず生きよの語（石田波郷）



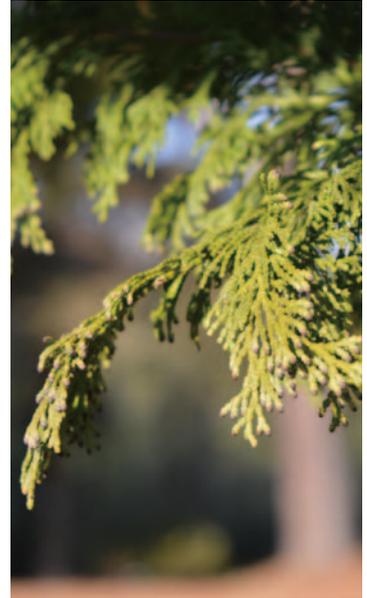


記念樹にふさわしい木とそのいわれ

合格祝い

ヒノキ

(ヒノキ科ヒノキ属)
(常緑針葉樹・高木・中庸樹)



願立てにアスナロならば、大願成就のあかつきには、ヒノキを植えるのがふさわしいだろう。世界最古の木造建築として知られる法隆寺は総檜づくりだが、千年をはるかに越えた木材の表面を削ったところ、下から木の香も新しい木目があらわれて、宮大工たちを今更のように驚かせたという。ヒノキの木組みは年月を経るにしたがって締まる。木材の王者というにふさわしい目標達成を祝して植えたい。

1. 特徴

開花期3～4月、結実期10月。生長はやや早い。園芸品種にチャボヒバ、クジャクヒバなどがある。

2. 植えるときの注意

時期 3～4月・9～10月

場所 低湿地を嫌うので、日当たりのよい場所を選ぶ。

3. 管理のポイント

虫害が発生したら、殺虫剤などで初期に駆除する。



川口緑化センターの主なイベント開催結果報告

1 第16回駒込・安行植木まつり

平成30年4月28日(土)・29日(日)

新旧の植木の里、駒込と安行の交流及び緑化の普及啓発を目的として、今年も駒込駅前の染井吉野桜記念公園において、表題の事業を開催いたしました。会期中は安行特産の花植木の展示・販売を始め、園芸デモンストレーションや無料鉢花配布等を実施し、来場者には大変好評でした。



2 第21回春の園芸フェスタ

平成30年5月26日(土)・27日(日)

安行特産の植木、花き、盆栽などの展示・販売をはじめ、新鮮野菜や軽食の販売などを行いました。他にも園芸講習会、コサージュ体験会、園芸相談コーナー、昔遊びコーナーなどを行い、来場者には大変好評でした。



3 第9回川口安行の植木・盆栽展 麻布十番

平成30年9月22日(土)・23日(日)

植木・鉢物・盆栽等の展示・販売と、盆栽展示、盆栽・園芸デモンストレーションを行いました。また、園芸相談コーナーや盆栽の夜間展示を行い、来場者には大変好評でした。

外国人の来場者が多いため、英語通訳を実施し、来場者へ緑化知識の普及啓発を図ることができました。



4 第86回秋の安行花植木まつり

平成30年10月6日(土)～8日(月/祝)

植木・盆栽・園芸資材等の展示・販売と、選りすぐりの盆栽を展示した銘品盆栽展、親子盆栽体験教室、女性向けの苔玉体験教室などが開催されました。また、同時開催の川口市観光物産展では、アーティストによるステージの他、物産品の販売などが行われ、大変好評でした。





神話・伝説の花と植物

(その7)

太陽神を慕い続けたヒマワリの花

太陽に向かって花を回すヒマワリは、ギリシャ語でヘリオス（太陽）の花といわれ、これに因んだ伝説がギリシャ・ローマの神話にある。太陽の神・ヘリオスに愛されていた水の精・クリーティは、彼の愛がペルシャの王女に移ってしまったことをねたみ、王女の恋愛事件の告げ口をした。これを聞いたヘリオスは王女を生き埋めにしてしまうが、このことはクリーティの嫉妬からの作り話とわかり、怒ったヘリオスは彼女を全く見捨ててしまった。悲嘆にくれたクリーティは、大地に伏せて何も食わずに彼女の慕う太陽が東から西の空へ運行するのを目で追い続けた。ついに神々は彼女を憐れんで「ヘリオスの花」に変えたという。

菊の花は姫と貴公子の愛の印

原産地の中国では不老長寿の花として扱われてきたが、日本でもその流れを汲み靈花とされてきた。観賞だけでなく供花、菊酒などとして庶民から貴族まで幅広く使われていた。「御伽草子」の中にはこんな物語がある。たいへん菊好きの姫が夜遅くまで花を観賞していたところ、突然、現れた貴公子と一夜の契りを結んでしまった。何日が過ぎると貴公子は髪を切って「私の形見だ」と姫に渡し「胎内に嬰兒を残したので大事に育ててください」といって消え去った。貴公子は菊の精だった。姫の生んだ女兒はまことに美しく育ち、帝に召されて女御になったという。 ※女御：天皇の妃（きさき）の称

悲しい物語を秘めたヒナギク

ぐびじんそう

別名、虞美人草。中国に古い伝説が残されている。昔、漢と楚の戦いで楚の項羽の軍は大敗を喫した。もはやこれまでと美しい愛妾虞美人と共に最後の別れの宴をやり、「虞や虞や、汝はいかにせん」と嘆きの言葉を残して出陣した項羽を見送った虞美人は静かに自刃した。そして彼女の真っ赤な血のしたたりがこの草花に化したという。晩春、音もなくハラハラと散っていくかぼそく美しい花は、虞美人の悲しい最後を伝えるような哀切さを感じられるそうだ。ヨーロッパでは昔、この花を煎じたり、砂糖を加えてシロップをつくり、うがい薬やせき止め薬にしたという。

クリスマスローズはイエスの花

花の名はイエス・キリストにちなんで付けられたという古い伝説が残されている。イエスが生まれた時のことで、羊飼いたちはそれぞれお祝いものを持って馬小屋のイエスのもとへ向かった。ある羊飼いの娘も捧げものに花を持って行こうと野原へ花を探しに行ったが、雪が積もっていて花は咲いていなかった。途方にくれていると、その悲しみを知った天使が舞い降りてきて翼でサッと雪をはらうと、その下に白い花が咲いていた。娘は喜んでその花を摘みとりイエスに捧げた。イエスがにっこりほほえむと、この花はうれしさのあまり思わずうつむき、ほんのり赤く染まった。以来、クリスマスローズとよばれ、うつむいて咲くようになったそうだ。



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成31年3月15日

発行：公益財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家 844-2

TEL.048-296-4021

ホームページ：http://www.jurian.or.jp/